

第4回 大和高田市教育環境あり方検討委員会 議事概要

開催日時	令和7年7月17日（木）10時00分～12時00分
開催場所	大和高田市役所3階庁議室
出席者	委員 11名（学識経験者、自治会代表、PTA代表、校長会代表、園長会代表） 事務局 8名（教育長、教育委員会事務局）
欠席者	委員1名
事業者	株式会社パスコ
案件	1. 開会の辞 2. 議事 （1）第3回あり方検討委員会の主な意見について （2）小学校・中学校の適正規模・適正配置について （3）幼稚園の適正規模について （4）小学校・中学校の目標校数について （5）地域と連携した学校づくりについて （6）委員会等のスケジュールおよび予定する議題について 3. 閉会

議 事 の 経 過	
発 言 者	発言の内容
事 務 局	1. 開会 ・ただいまから第4回大和高田市教育環境あり方検討委員会を開催する。 ・委員の皆様にはお忙しい中ご出席いただきお礼を申し上げます。 ・本日は生島委員が都合により欠席であるが、過半数の委員が出席しているので、大和高田市教育環境あり方検討委員会設置要綱第6条第2項により本検討委員会が成立していることを報告する。 ・配布資料の確認。 ・この会議は議事録作成のため録音と広報用に会議風景の撮影を行うのでご了承ください。 ・進行を議長と交代させていただく。
委 員 長	2. 議事 ・本日は12時までを予定しており、主に議題2から5になるので、よろしく願います。 ・議題1の第3回あり方検討委員会の主な意見について、事務局から願います。
事 務 局	(議題1) 第3回あり方検討委員会の主な意見について ・資料説明
委 員 長	・今の説明についてご意見、ご質問はあるか。 ・ないようなので、議題2の小学校・中学校の適正規模・適正配置について、事務局から願います。
事 務 局	(議題2) 小学校・中学校の適正規模・適正配置について ・資料説明
委 員 長	・基本的な考え方で、これをもとに案を作成することになる。 ・ご質問、ご意見はないか。
委 員	・2ページの参考の表を見ると、望ましい規模を維持する小学校は高田小学校だけであり、何らかの策を打たなければならない。 ・現状を見れば統合やむなしなのは歴然としている中で、本市における適正配置について、「将来的に学校統合や通学区域の見直し等の検討を行う場合においては」との記述は、市民を納得させるうえでは、あまりにも弱いのではないか。 ・現状、既に見直しが必要という前提で、それがこの会議であり、通学区域における最長距離・最長時間が今より大きくなることも踏まえて検討しているのではないか。 ・小学生の場合は通学が大きなネックになってくる。 ・地域で1中1小と考えていることも踏まえると、この書き方で出すのは弱いのではないか。ご検討いただきたい。

事 務 局	・現状において適正規模を維持するための学校数・学校規模・配置を検討しており、具体的に配置（案）を示していくことになる。 ・配置の状況により、今と通学距離が変わるエリアが見えてくれば、もう少し具体的に示していけると考えている。
委 員 長	・文言を「将来的に学校統合や通学区域の見直し等を行うこと」とする。
委 員	・通学距離について、国が目安とする基準は概ね1時間以内であるが、統合されてスクールバスがない場合、小学生でも1時間以内であれば歩いて通うことになるのか。
事 務 局	・国の基準がある中で、本市の実態に合わせた判断が必要と考えており、国の基準ですべて決めていくことは考えていない。
委 員	・統合前に地域の人たちに、この距離であれば徒歩で、ここはスクールバスになるなど、先に説明してもらえるのか。
事 務 局	・配置（案）を示す場合には、通学距離など、国の基準に基づいて対策が必要なエリアについても示していく必要があると考えている。 ・合わせて通学の方針も示していきたい。
委 員	・臨機応変に対応し、遠くて徒歩では無理となれば違う方法を考えるということか。
事 務 局	・単純に国の基準だけですべて決めることはできないと考えている。
委 員	・保護者は、統合されて学校数が減るのは当然と考えている。その中でどの学校がなくなるのか、遠くなった場合にどう移動するのかといった質問や意見が多くある。みんなが悶々として過ごしているので、時間をかけて進めたい気持ちもわかるが、もう少し早めてもよい。どこに家建てるか、どこに引っ越すのかということにもかかわってくる。
委 員	・子どもたちも不安で、噂が噂を呼んで話が大きくなると混乱すると思うので、もっと早く知らせてはどうか。 ・早めに大まかな形を示したうえで皆さんの理解を得ないと変な噂が流れてしまう。
事 務 局	・ご指摘のとおりで、子どもの数が減るのは見えているので、どうなるかという不安はあると思っている。 ・地域の方と合意形成を図っていく必要があり、全国的な課題でもある。 ・地域の皆さんへの周知や合意形成が重要になると考えているので、まずは子どもたちの教育環境を維持するための適正規模を決めたうえで、その規模を人数の減少に合わせて維持していくために必要な学校数を決めていきたい。 ・基本計画ができれば大まかな地域と学校の配置をお示しできる。 ・基本計画に基づいて実際どういうスケジュールで進めていくかも含め、地域の方と合意形成を図りながら、理解を得るためには説明も必要になってくる。

委 員	・ 基本的には話し合いをして、住民あるいは保護者に対して説明する根拠が欲しいということ。その根拠を考える。
事 務 局	・ 市の計画を示し、それを根拠に説明していくことになる。
委 員 長	・ 計画については第6回で案を示してもらえるか。
事 務 局	・ いただいた意見をもとに、今年度中に基本計画を示していく。
委 員 長	・ 議題4でも出てくるので、そこで意見があればお願いします。 ・ 幼稚園の適正規模について説明をお願いします。
事 務 局	(議題3) 幼稚園の適正規模について ・ 資料説明
委 員 長	・ 幼稚園については、今後、保育所・こども園と合わせた一体的な検討が行われるので、そちらに委ねつつ、委員会としては幼稚園に何を望むかといった意見を出していくことになる。
委 員	・ 幼稚園とこども園を最終的には合わせていくのだと思うが、幼稚園と保育所では中身が違う。保育所に合わせるのか、それとも幼稚園の教育の部分を保育所に入れていくのか。
事 務 局	・ 現在、公立の幼稚園・保育所・こども園があり、こども園は2園ある。市内には民間の保育所・幼稚園もある中で、地域の立地に合わせた規模や公立の数を考えていく必要がある。 ・ 民間として保育所を残す地域もあるかもしれない。それぞれの機能を残しながら考えていく必要がある。 ・ 質問への答えとしては、幼稚園と保育所の両方の機能を備えた施設が必要だと考えている。
委 員	・ 娘を幼稚園とこども園に入れていたので両方ともわかるが、こども園と幼稚園では内容がまったく違う。幼稚園は教育という形で多様な経験ができるが、こども園は人数も多く、できない部分も出てくる。 ・ 幼稚園とこども園とでは内容が違うので、幼稚園を求めている保護者は幼稚園を残してほしいという意見がある。
委 員	・ ありがたいご意見で礼を申し上げる。 ・ 私自身、こども園の開園の年に勤め、幼稚園に戻ってきたが、現状のこども園は保育園化している。 ・ 幼稚園は子どもの主体的な遊びを大事にして学習につなげていく。小学校につながるための学びの基礎を幼稚園教育の中で大事にしている。
委 員	・ 幼児教育のニーズは減っているかもしれないが、大事な部分だと思うので、幼児教育を残すために3・4・5歳と一緒に教育して小学校に上げていく幼稚園型のこども園をつくっていくことも検討したい。 ・ 市内の6幼稚園で働いている職員はみんな、幼稚園の機能を残しつつ、次は幼稚園型のこども園をつくっていききたいという話をしている。 ・ この思いをしっかりと教育委員会の方にもお伝えして、幼稚園の機能を残したこども園にしていきたいということで話を進めている。

事務局	・教育委員会としては、公立幼稚園の機能や良い部分など、残していくべき部分をしっかりと伝えながら、今後の就学前教育施設の配置やあり方についても公立幼稚園の必要性を市長部局へ伝えていきたい。
委員長	・貴重なご意見なので、ぜひ伝えてもらいたい。 ・議題４の小学校・中学校の目標校数について、事務局から説明をお願いします。
事務局	（議題４）小学校・中学校の目標校数について ・資料説明
委員長	・ご質問、ご意見はないか。
委員	・14年から22年度は、中学校はそのまま小学校だけ統合することになるが、新設するのではなく、既存の学校に他の３校なり４校が統合する形になるのか。
事務局	・基本計画では、３中学校の地域コミュニティを残しながら、各中学校のエリアに新しい小学校をつくり、その小学校にみんなで通うというイメージで配置していきたい。 ・基本計画の段階では、どこに新しい学校を建てるかは示せないと考えている。そこは、次の実施計画も含め、地域との合意形成を図りながら考えていく必要がある。 ・事務局としては、適正規模の維持と新しい環境づくりが目的なので、他の小学校を吸収するというのではなく、新しい学校をつくる案を示したいと考えている。 ・場所については小中一貫の連携や義務教育学校も想定しながら考えていきたい。
委員	・義務教育学校を想定されているということだが、そうすると、中学校と近い小学校に統合するということになるのか。
事務局	・中学校の場所については、地域のコミュニティを重視する観点から基本的に大きくは動かさないが、予算を踏まえ、適切な場所を検討していく。
委員	・新しい学校というのは32年度以降の話になるのか。
事務局	・14年から22年の間にも３つの中学校区に新しい学校をつくっていく計画を立てたいと考えている。 ・32年以降において、３中学校区の適正規模が維持できなくなった場合には、見直しが必要になってくると想定している。
委員	・新しい学校を14年から22年でつくって、さらに32年度以降にも違う場所に新しい学校をつくるというのは予算的に無理ではないか。
事務局	・ご指摘のとおりで、32年以降については２中２小の配置を踏まえながらの検討になる。
委員	・３校なり４校の小学校を１つの小学校にするにあたって、スクールバスは考えているのか。

事 務 局	・中学校区は変わらないので、中学生にとっては大きく変わらないが、小学生は低学年の子どもたちも含め、通学距離が大きく変わるため、何らかの対策が必要だと考えている。
委 員	・具体的に 3 中 3 小が出てきたので、幼稚園も 3 園になる可能性が高い。 ・小学校の再編が検討されている令和 14 年までの間、今の 6 幼稚園はもたないと思う。秋以降には来年度の募集を行うこととなるが、再編後の園がどこになるか、計画的なことも盛り込んで、新年度の募集をかける時期には市民に示してもらえるとありがたい。
事 務 局	・幼稚園については保育所・こども園も含め 3 つの施設をどう配置していくか、令和 7 年度と 8 年度の 2 か年で基本計画を作成し、基本計画をもとに地域の方と合意形成を図っていく。 ・これまでは公立幼稚園と小学校との連携で小学校の近くに幼稚園があった。小学校と幼稚園の接続で公立を残していけば一番いいが、幼稚園に関しては保育所・こども園と合わせた配置になってくる。 ・保育所やこども園の見直しも早急に求められているので、14 年に合わせるのではなく、幼稚園に関してはこれより早い時期に進めていくことになると考えている。
委 員	・PTA の要望書にもあると思うが、片塩小学校の子どもたちは高田中学校と片塩中学校に分かれてしまうので、それを何とかしてほしいとの意見が保護者から多く出ている。 ・例えば御所市は、今年入学した 1 年生が中学 1 年生に上がるときに義務教育学校にすることだが、在籍している児童が残ったままで動かしてしまうと、小学校のどこかで分かれることになる。 ・閉校して動かすことになるのか。 ・今いる生徒が 6 年生になって卒業するまでは片塩小学校を残し、新しくできる小学校に 1 年生を入れていく。そういう形にしないと分かれてしまうので、進めていく中で検討してもらいたい。
事 務 局	・片塩小学校の子どもたちが 2 つの中学校に分かれて行っているという現状に照らして案を示しているが、意見を頂戴したかったのでありがたいと思っている。 ・以前から地域の方や保護者からそういった意見があって、片塩小学校の子どもたちは新しい学校ができて別々の中学校に行くことになるのか。それを地域の方が求めているのか。求めていないのであれば、一緒に新しい小学校、新しい中学校に進学できるように見直しも必要と考えている。 ・みんなで一緒に新しい学校へ行けるタイミングを設定する必要があると考えている。 ・片塩小学校について他に意見等があればいただきたい。

委員長	・他にご意見等はないか。
委員	・片塩小学校に勤めていたことがある。高田西中ができたときに分かれることになったが、新しく再編するのであれば一緒に同じ中学校に行ける方向がよい。
委員	・今はきっちり半々ではないのか。
事務局	・およそ半分という形で分かれている。
委員	・道を境にどちらに行くか、地域で決められているのではないか。 ・人数によって境界が動いたりするのか。
事務局	・人数によって境界を動かすといった運用はしていない。 ・きれいに真ん中で分かれているのではなく、地区で分けているのが現状で、地区のはざまではすれ違うこともある。
委員	・女子は男子よりもグループになるので、グループになったものの、仲の良い友達と離れてまた一からになるのでかわいそう。 ・高田中は、半分以上が高田小から上がってくるので、知らないグループに入らなければいけない。みんなが同じように行けるのがよい。
副委員長	・3中学校のコミュニティを大事にして3中学校を残すという事務局提案には大賛成である。小学校区のコミュニティもずっと続いているが、発想の転換で、大きく3つの中学校区を地域コミュニティとして残していく。小中も1つになり、将来的には小中一貫や義務教育学校にも発展していくという方向性が大事だと思っている。 ・総論としては賛成だが、高田中学校区の片塩・高田・土庫小学校で全く新しい小学校をつくるのか、市民の皆さんが悶々としているのは、どの学校を拠点にするのかということ。 ・3つの小学校として新しい学校をつくるのであれば、新しい出発点だという考えにどの地域の人もなると思うが、財政的に考えたときに新しい学校ができるのかどうか。市の財政を踏まえると、それは厳しいということも、市民の皆さんもわかっている。 ・高田中学校区であれば高田小学校が拠点になるのか、片塩小学校が拠点になるのか。片塩中学校区では浮孔西小学校が拠点になるのか。そこまで示していくのかどうか、教えてほしい。
事務局	・基本計画では、新しい学校を建てるのか、既存の学校を改修して活用していくかまでは、具体的には示せないと考えている。財政状況もあるので、市長部局とも調整しながら検討していく必要がある。 ・事務局としては、地域の方に、子どもたちに新しい教育環境をつくるという説明が必要と考えている。

事務局	・そもそも、どの小学校も中学校も校舎が築 50 年を超えており、仮に 10 年後に改修や増築をしたとしても、そこから 30 年、50 年もつかというともたない。市の財政状況もあるので、残り 20 年のために投資をするのか、それとも今後 50 年以上続く新しい学校に投資すべきなのか、市として検討することも必要であると考えている。 ・名前も建物も新しい学校をつくり、みんなで新しい学校に行く。そういう案を示していきたい。 ・場所については、小中一貫や義務教育を踏まえると近くがよいので、近くの学校を活用した建替えや改修になってくると考えている。
副委員長	・市内の 8 校とも、それぞれの特色、地域とのつながりを活用しながら、150 年の歴史がある伝統校であり、地域に住まれている方々は学校に愛着を持っておられる。 ・どちらもなくなるかもしれないが、新しい学校に変わるとなるとどこに持っていくか、いろんな意見が出てくると思われる。実際につくるとなれば、よほどの根拠と信念を持って考えていかねばならない。
事務局	・統廃合が進んでいる自治体を見て、学校がなくなることまちがさびれることを懸念していた。 ・大和高田市はコンパクトシティを目指している。そういう意味では、ネガティブに統廃合をするのではなく、地域は大事だからまずは中学校区は残すという案は残していく。 ・地域とともに学校は育つ。小学校の人数を見たときに、子どもの教育環境を考えると統合せざるを得ない。そうなったときに、自分たちの地域に新しい学校をつくるという機運を高めていく必要がある。 ・全国の事例を見ても失敗したところはたくさんある。それは学校同士の吸収合併により、どちらかの学校が消滅してしまうからである。新しい学校をつくり、新しい教育を校区のコミュニティの中でつくっていく。その機運を高めていく必要がある。 ・子どもを通わせている保護者、これから子どもを通わせる保護者は、人数も含め子どもにとって良い環境を提供してほしいと思っているのではないかな。 ・地域の中でも意見が割れている。大和高田市はコンパクトシティで、中学校区の中で新しい学校を自分たちでつくる。名前も変えてしまう。公募してはどうか。 ・自分たちで新しい学校をつくる。そういう機運を高め、地域の人たちと密に話し合いながら進めていきたい。
副委員長	・子どもの教育環境や地域との連携を考えただけで、校区のコミュニティの中で新しい学校をつくっていくことが大事だと思う。

委 員 長	・中学校区を残して中学校区内で1小1中に統合。これについては皆さんから同意をいただけるということでよいか。 ・場所は難しいところがある。建て替えるといっても既存の施設が使えるのかどうか。建て替えている間は、その学校の子どもたちは他へ行かなければならない。財政との関係が入り込んでくることも考えられる。 ・委員会としては中学校区をベースとした1小1中の考え方で進めていくこととしたいが、片塩小学校はどういう扱いになるのか。
事 務 局	・片塩小学校の保護者などの意見を聞きながら最も良い方法をとりたい。1つの中学校にそのまま一緒に行けるようにする。これが大きいと思っている。
委 員 長	・どちらかの中学校区の児童が先に再編して抜けることで、適正規模は変わらないのか考えなければいけない。
事 務 局	・それも考えなければいけない。
委 員 長	・委員会としては、片塩小学校についてはこんな意見があったということにすればよいと思っている。その意味でも意見を出してもらいたい。
委 員	・高田中学校に行く地区の子は、片塩・高田・土庫を合わせた小学校に行くことになるのか。 ・本来、高田中学校に行く片塩小学校の子は初めから高田小学校に行く。そうすれば分かれることはない。 ・3小になるということは、そうなる可能性が高い。
事 務 局	・片塩小学校の子どもたちは高田中学校区の新たな小学校に通い、そのまま高田中学校に進むという案も出てくるのかと思う。
委 員 長	・同じ小学校の中で、分かれて中学校へ行く子はなくなる。
事 務 局	・子ども達にとって、同じ小学校に行って同じ中学校に進めるようにしていくことも必要であると思うが、今後検討していく。
委 員	・小中学校の1校あたりの平均の年間予算はいくらなのか。
事 務 局	・即答できなくて申し訳ない。
委 員	・建替えたとしてペイできるのかどうか。 ・学校が減るとハード的にも人的にも費用が浮いてくる。建替えたとしてそれを補えるだけのものがあるのか。中学校も古いからそのうち建替えなければならない。小学校も中学校も人数が変わらないのであれば、9年間使える建物ができたとしたら、その方が理にかなってくる。それだけの予算があるか知らないが、それも考えられる。
事 務 局	・ご指摘のとおり財政的なことも踏まえて考える必要がある。
事 務 局	・一方で、小学校としての機能がなくなったとしても、地域のコミュニティ活動の拠点となる公共施設として残していくこともできるので、市長部局の公共施設のあり方と合わせて考えていく必要がある。
委 員 長	・この案でいけば新たな校区ができるわけなので、片塩小学校のことは考えなくてもよい。

委 員	・今、通っている子どもたちはどうなるか。
委 員 長	・それこそ通学区域を変えていくということになるのではないか。
事 務 局	・中学校区単位で同じ時期に新しい小学校と中学校がスタートするというかたちで進められるのが望ましい。
委 員 長	・同時でなければ、片塩小学校の児童が半分になる期間ができることになるのではないか。 ・複式までにはならないと思うが、片塩中学校区の再編を早くする、ずれたとしてもなるべくずれないようにして、片塩中学校についても早く取り組むことができればその辺りは考えなくてもよくなる。
事 務 局	・新しい小中学校ができるタイミングで片塩小学校の子どもたちは基本的には高田中学校に行くことになると考えられるが、今後検討していきたい。
委 員	・気になるのは今、小学校に通っている子たちとのズレである。 ・高田中学校区に新しい小学校ができたときに、1年生からきれいに行ければよいが、現在、片塩小学校に通っている2年生から6年生の子たちはどうするのか。
委 員 長	・新しい小学校ができれば、片塩小学校のうち高田中学校に行く1年生から6年生までの児童が全て新しい小学校に移って、片塩中学校に進む子たちだけが残る。
委 員	・卒業して中学校に進むタイミングで別れるのではなく、新しい小学校ができたタイミングで1年生から6年生の子どもたち全員が別れるということか。
委 員 長	・片塩小学校は新しい学校ができた時点で全学年が別れる。土庫小学校の子は新しくできたら全員が行く。
委 員	・在校生はそのまま片塩小を卒業するまで別れずに行くのかと思っていた。 ・片塩小だけ中学校のタイミングで別れるから特別感をもって残してくれるというイメージであった。 ・今までのルールでは中学校に進むタイミングで分かれていたが、新しく小学校ができたタイミングで、小学校で別れるのか。とりあえず仕方がないと思うが。
委 員	・修学旅行も、新しい学校で修学旅行に行かなければいけない。
委 員	・それも貴重な意見として入れておいてはどうか。
委 員	・新しい学校ができる数年前から、高田中学校に上がる片塩小校区の子どもは、高田小学校に入学させてはどうか。
委 員 長	・兄弟がいる場合、年次的に分かれると、運動会や授業参観も二つの学校へ行くことになるので親御さんには負担になる。 ・学年が変わるときにクラス替えがあるように、A組とB組のうち、A組の子たちが移るという発想ではだめか。

委 員	・授業以外でも交流があるので、保護者や当事者の子どもたちからするとどうなのか。 ・片塩小学校から高田中学校と片塩中学校に分かれる時点で、仲良しだったのにと落ち込んでいる子を何人も見てきた。
事 務 局	・資料では中学校区をベースとして現在の小学校の割り振りを示しているため、高田中校区と片塩中校区の両方に片塩小学校が示されているが、現在片塩小学校に通う子どもたち全員が高田中学校区の新しい小学校に進むということも考えられるが、それはどうか。
委 員	・片塩中学校区の図からは片塩小学校がなくなるということか。
委 員 長	・片塩中学校は浮孔・浮西・菅原の子たちだけになるということか。
委 員	・それに関しては感情の問題だけであると思う。 ・ただ、今であれば部活動の面で差がある。片塩中学校ではできるのに高田中学校に行くときできない部活はある。 ・先々部活動も変わってくると思うので、あとは感情だけではないか。
事 務 局	・義務教育学校を想定する場合、望ましい学級数は18から27となるが、片塩小学校の子がどちらの中学校に行くかで、どちらかの再編のタイミングが遅れてしまうことも想定される。
委 員	・6年生まで片塩に行って、新しく入る1年生を分けるのは問題ない。 ・最終年次には、片塩小学校は6年生だけ残ってしまうことになるが、きれいにまとまる。6年生は卒業して中学に上がることになる。
委 員 長	・中学校区は残すが、片塩だけは例外になるということか。
事 務 局	・高田中学校に進むのか、片塩中学校に進むのか、子どもたちの立場で考える必要がある。どちらがよいかは引き続き意見をいただきながら検討する必要がある。
委 員 長	・片塩だけは例外で、どちらに行くかということか。
副 委 員 長	・これまで片塩中と高田中は地区で線引きをしていたが、これは妥当で、どちらの中学校に近いのか、学校までの距離を優先的に、通学の時間も考えて、そこに重きを置いてくれているのかと思った。
事 務 局	・新しい学校ができるタイミングで、通学区域や配置に合わせて、どちらの学校に行くかタイミングも考える必要があるが、同じところに行くのではない。そういう案もよいという意見。
副 委 員 長	・通学時間を短くできる地域、歩いて行ける地域を増やすのであれば、これまでのように片塩小学校を2つに分けるのは、それはそれでよいのではないか。どちらかの中学校区とした場合、通学時間を考えるとコミュニティバスを使わなければいけない地域が出てくるのではないか。
事 務 局	・2つに分けるとなると、片塩中学校区が適正規模になるのは高田中学校区よりもさらに後になる。高田中校区と片塩中校区の学校にそれぞれ行くとなれば、高田中校区の新しい学校に行く子と、片塩中校区の新しい

	学校に行く子とで新しい学校に行くタイミングに差がでてくる。時期によっては片塩小学校にいる子どもの数が半分近く減ることもあり得る。
委 員 長	・どちらか一方に行くのであれば、昔は片塩小校区の全員が片塩中に行っていたのだから、そちらのほうがよいのではないか。 ・今は片塩中学校を横目にしながら高田中学校まで行っている子もいる。
委 員	・どこかの段階で踏み切らなければならないが、分かれるにしても在校生の児童は分けないで、中学校に入る段階で分かれてもらうのが妥当ではないか。 ・片塩小学校の全員が高田中学校に入るとアンバランスが生じる。
事 務 局	・ご意見が出ていたように、距離に応じてということも考えつつ、子どもたちの気持ちもしっかり汲み取りながら、3年間よかったと思って卒業してもらえるように心がけて努めていきたい。
委 員 長	・片塩小学校の今後については、適正規模がどうなるかで判断するしかない。気持ちの問題ではなく、適正規模で判断するのが一番ではないか。
委 員 長	・分かれる場合は、学年進行で分かれるのか一気に分かれるのか、この2つの意見があったという程度にしておいてもらいたい。
副 委 員 長	・片塩小学校の全員が高田中学校に行くとなると、どういう形になるのかという話になると思う。現時点では、通学距離も含めて柔軟に片塩小学校がどちらにも入っているこの示し方は残しておいた方がよい。
委 員 長	・事務局でまとめてお示しいただきたい。 ・課題5の地域と連携した学校づくりについて説明をお願いします。
事 務 局	(議題5) 地域と連携した学校づくりについて ・資料説明
委 員 長	・統廃合にかかわらず、今後数年でできる取り組みはないかということである。ご意見等はないか。
委 員	・学校施設の役割として児童・生徒の放課後の居場所という割合が大きいと思うが、現状、放課後、子どもたちに開放されているのは運動場だけなのではないか。
委 員	・自由に活動できるのは運動場だけと思う。
委 員	・私たちの時代とは違って気温がどんどん上昇している中で、親としては外で遊ばせてあげたいが、ずっと外で遊ばせるのは熱中症などで厳しい。親がそばにいて水分補給の声かけができればよいが、遊びに行くとそれもできない。学校の中の一部施設を室内で遊べる場所として開放するのは難しいのか。
委 員	・放課後に運動場を開放しても運動場に職員が出ることは難しい。 ・場所の提供だけでなく、そこに来るまでの間や帰るとき、万が一のときの連絡などを考えると、学校を開放して自由に使わせるのは現状では大変難しい状況である。

委 員	・運動場は使えても室内は使えないということか。
委 員	・校舎内で走り回ってはいけないことも含め、自由に過ごせる場所として施設を開放するのは難しい状況である。
委 員	・基本的に今の保護者の考え方では校舎を開放するのは無理だと思う。ケガをすると学校のせいにされると考えたら、子どもを入れない方が運営しやすい。
委 員	・アンケートの結果から、学校で子どもを預かってほしいのだと感じ取ったが、難しい状況である。
委 員	・遊ぶ場所が室内となると誰かの家ということになる。保護者側からすると、友達が来たら何かしてあげなければいけない。ずっといると親がしんどい。 ・家だとゲームやケータイになってしまうので、外で遊ぶ場所があればよい。
委 員	・高田中学校の生徒会の子たちがこども建設のイベントでプレゼンしていたのは、中学生の遊ぶ場所がないからつくってほしい、ということだった。中学生がいられる場所を考えてほしい。
委 員	・ボール遊びができる場所が少ない。昔は小学校から帰ったら遊びに行っていたが、今はボール遊びができない。 ・子どもの遊び場が減っていると感じている。公園はあっても遊具がない。そういう中でゲームになるのは理解できる。環境がそうさせてしまっている。 ・小学校が空き地になったときに何に活用するのかと考えたときに、子どもが遊べる場所をつくるのも考え方の1つで、高齢者が囲碁をしている横の部屋で子どもたちが遊んでいる、そういう使い方もできる。グラウンドがあればボール遊びもできる。自己責任になるが、それが許されるのであれば子どもたちにとってはありがたい。
委 員 長	・地域学校協働活動はまさにそれを狙っている。高齢者、保護者、NPO、企業などが昔の遊びを教えてくれる。そういう場所をつくるというか、放課後子ども教室があればよいが、現状ではなさそうである。
委 員	・大半の親は、勝手に遊びに行ってしまうとは思っていないで、送らなければいけないからどこにも行かないでほしい。送っていければよいが、そういう家は圧倒的に少ないから、帰ったら家にいるか、習い事に行くか。そういう家が多い。
副 委 員 長	・放課後児童クラブが充実すれば解消できるのではないかな。 ・統廃合したときに1つ大きな課題となるのが放課後児童クラブだと思う。統廃合でなくなった学校で積極的に、放課後児童クラブも含め放課後の居場所づくりができるか。施設の管理の問題もあるが結局は人で、市として人を配置できるかどうか。

委 員	・地域の公民館で、地域の方にある程度の給与をお渡しして運営していくのも1つではないか。介護の仕事をしているので、地域の方々に立哨してもらったり、ボランティアで来てもらったりしているが、高齢者の健康づくりの1つになっていると感じている。 ・ただ、学校が統合されて遠くなると愛着もないから人は行かなくなる。 ・ボランティアする人には3つあって、自分が通っていて愛着があるから手伝う、自分の子どもが通っているから手伝う、関係はなくてもボランティアがしたいから手伝う。3番目の人は少ない。
委 員	・学校に関わるのは学校周辺のお年寄りに限られて、遠くの人に関わらないと思うので、空いた学校をその人たちが使える場所にする。あるいは高齢者と子どもたちが交流できる場所にしていく。これは教育委員会だけでなく、逆に一緒に考えていくチャンスではないか。
委 員 長	・企業を入れるのは難しいのか。 ・学童を企業に委託しているところもある。
委 員	・それもよい。委託するのも1つだと思う。
副 委 員 長	・統廃合を進める中で、この地域をどうするか、廃校になった学校はどうすべきか、地域の方も含めて説明するときに、いかに協力してもらえるか、いかに1つになってもらえるか。単なる統廃合ではなく、地域の人たちを巻き込んだ話に持っていけるかが重要である。
委 員	・どの市も困っているのは地域との合意形成で、納得してもらうのに時間がかかる。本来はここに時間を割かなければならない。 ・御所市でも何度も説明したそうなので、そこが大事だと思う。
委 員 長	・委員会等のスケジュール及び予定する主な議題について、説明をお願いします。
事 務 局	（議題6）委員会等のスケジュール及び予定する主な議題について ・資料説明
委 員 長	・ご意見等はないか。
委 員 長	・本日の議題はこれで終了となる。多くの意見を出していただきお礼を申し上げる。 ・事務局にお返しする。
事 務 局	・本日は、皆様のご協力を得て第4回大和高田市教育環境あり方検討委員会を無事終了することができた。 ・次回は令和7年9月に第5回検討委員会を開催する予定である。日時が決まればご連絡する。今回の配布資料はお持ち帰りいただき、次回の検討委員会にお持ちいただけるようお願いする。